

平成27年度 NIE 実践報告

鹿児島県立鶴翔高等学校

地歴公民科 園田 美雪

1 はじめに

本年度初めて実践校の指定を受け、NIE に関する取り組みを行ってきた。本校は創立11年目を迎えた、総合学科、農業科学科、食品技術科の3学科からなる、全校生徒333名の新しい学校である。創立11年目を迎え、更なる発展のため、この度NIE 実践校を引き受けることになった。

NIE の取り組みについては、現在も他校で取り組んでいる実践を参考にしつつ、手探りながら「鶴翔スタイル」を模索している最中である。

2 実践内容

(1) 購読計画について

本年度の購読計画は、以下の表のとおりである。

	9月	10月	11月	12月	1月	2月
朝日	○	○	○	○		
読賣	○	○	○	○		
毎日	○	○	○	○		
日経	○	○	○	○		
西日本	○	○			○	○
南日本	○	○			○	○

申請の関係で9月からの購読となった。後述するように、まずは3年生の進路実現に役立てようと思い、3年生が習熟度別の授業などで使用することが多い「選択室3」の一角に「NIE コーナー」を設けた。特に9・10月は就職試験が集中すること、また、進学についても推薦入試の志望動機などを作成するので、この2ヶ月は6紙全てを購読し、生徒が社会情勢について調べたり、読み比べをしたりしやすいようにした。もちろん、新聞の購読回数には上限があるため、11・12月は4紙に、1・2月は2紙にした。また、こちらも後述するように、1月からは1・2年生に活用してもらえるように、1・2年生が授業などで使用することが多い「選択室1・2」にNIE コーナーを移設した。

(2) NIE コーナー

新聞が配達される当日は教員が目を通したり、また、コピーなどをとって活用したりしてもらえるように、職員室のテーブルに置き、先生方に読んでいただいた。そして翌日には設置した「NIE コーナー」に、新聞の一面を壁に掲示していた。特に一面に同じ記事が掲載されているときは、見応えのある掲示になった。掲示が終わった新聞は、教室後方にある棚に日付毎に整理し、活用ができるようにしておいた。

また、同じテーマで書かれた社説がある場合には、「読み比べしてみよう」と題してコピーを取り、掲示した。全ての記事を網羅していたわけではないが、18歳選挙権を見据え、社会に関心を持ち、その問題に対して主体的に考える生徒の育成を目指し、生徒が比較的関心を持ちやすいもの、または是非読んでほしいと思う記事をコピーして掲示した。評判は上々で、個別にコピーをとって生徒に読ませ、面接練習に役立てていた先生もいらっしやったようだ。その他にも、本校が取り上げられた記事や「若い目」もコピーをして掲示した。



（３）朝読書における課題

本校でも、多くの学校が取り組んでいる朝読書を実施している。NIEの実践を始めてから、毎週金曜日を「NIEの日」として位置づけ、新聞記事を読んで感想を書く課題に取り組んだ。本年度取り上げた記事は以下のとおりである。（日付は実施日）

月	日	新聞名	タイトル
9	4	朝日新聞	いちからわかる！「そもそも五輪エンブレムとは？」
	11	讀賣新聞	「青春は有限」何事にも熱心に（作家 朝井リョウさん）
	18	讀賣新聞	【このとり】日本の無人補給船 ISSに物資
	25	南日本新聞	『日本食』世界で大幅増8万8650店
10	23	日本経済新聞	コトバ百貨店「ルーティン」集中力を高めるスイッチ
	30	南日本新聞	南風録
11	6	西日本新聞	イクメン&イクジイ
	12	読売新聞	人事の眼 変化を楽しめる「仲間」期待
12	4	毎日新聞	教えて！池上さん 来月の注目ニュース
	18	讀賣新聞	ザッカーバーグ氏「5.5兆円」寄付
1	15	朝日新聞	ひと 最年少上場を目指す女子高生社長
	22	南日本新聞	「今どきの若いもん」に学ぶ —ミスター高橋
	28	西日本新聞	「青春は生涯続きます」高橋 みなみ「リーダー論」刊行

この取り組みを通じて、記事を読んで元気になってもらおうと思い、明るい話題を中心に取り上げた。また、進路を見据え、人々の生き方に迫る記事も取り上げた。生徒はもちろんであるが、先生方の中には、記事を読んで、感想を話してくださる方もいらっしやったので、課題を作成する立場としては、大変励みになった。また、新聞や記事の内容が片寄らないように、全ての新聞の記事を取り上げるよう心がけた。

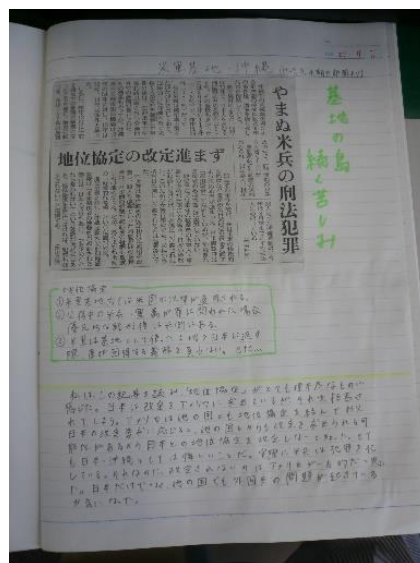
（４）進路実現に向けて

まず、3年生が進路実現に向けて活用してもらうために、3年生が利用しやすい教室に

設置した。放課後、新聞を読み、面接対策用のノートにメモをする生徒、友人らと一緒に新聞を読んでいる生徒、小論文や面接用に、関心のある記事を担任などにコピーを依頼している生徒など、様々な形で活用していた。より具体的な取り組みとしては以下のとおりである。

ア 「書きなれノート」から「スクラップノート」へ

本年度第20回 NIE 全国大会秋田大会に参加させていただいたが、大会中の尾木直樹氏の講演で紹介されていた「書きなれノート」に触発され、小論文指導を担当していた生徒に指導の一環としてその取り組みを取り入れた。生徒は、志望先に関する記事のコピーをとり、それに関する感想や意見の記入まで、指導期間中、ほぼ毎日取り組んだ。さらに、試験前にはそのスクラップノートを元に、手持ちの教科書や資料集を活用して、まとめる作業も行った。努力の成果、見事志望校に合格し、その成果を「若い目」にも投稿し、掲載していただいた。



イ 1・2年生にも新聞を

新年が始まり、当初の計画通り1・2年生の使用頻度が高い教室に、それぞれ「西日本新聞」と「南日本新聞」の1面を、3年生で取り組んだように教室後方に掲示した。また、本校関連記事などは職員室出入り口近くの掲示板に掲示し、生徒の目につきやすいよう工夫をした。1・2年生も昼休みや放課後、読んでいるようで、少しずつ新聞を手にする生徒が増えてきている。

(5) 普段の授業で

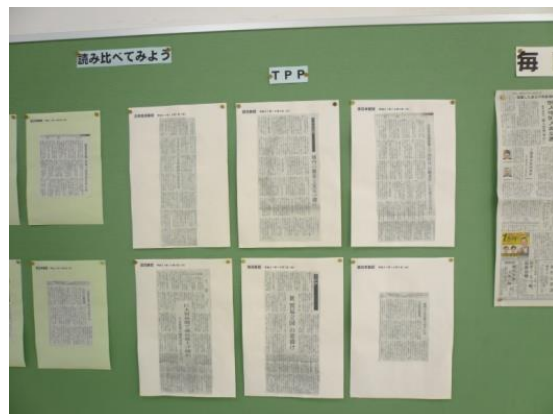
ア 導入に新聞を

本校は決して家庭における新聞購読率は高くない。また、生徒の実情として、社会問題に向ける生徒は少なく、例えば、「現代社会」や「政治・経済」で学習する内容と、現実問題が繋がらない生徒が散見される。

そこで、公民科の職員を中心に、授業にはほぼ毎回その日の新聞を持参し、今話題になっていることや、注目してほしい記事などを紹介する取り組みを行った。毎回、その日の授業と新聞記事がリンクしているわけではないが、社会に対する意識が少しずつ芽生え、社会問題に関する発問をすると、以前に比べ、答える生徒が増えてきている。

イ 読み比べ

同時に多くの新聞を購読していると、同じテーマで読み比べができる。特に昨年は「安保法制」や「TPP」、さらには「パリでのテロ」といった大きなトピックがあり、新聞を一面で取り上げられていた。その日は、6紙全て持っていき、記事を見せたところ、生徒は驚き、興味を持っていた。また、「安保法制」については、「現代社会」の授業で、6紙の社説をコピーし、グループで読み比べ、最後には自分の意見をまとめる取り組みをした。この授業を通して、知識を深め、自分の意見をまとめることができ、生徒にも大変好評だった。



ウ 長期休業中の課題に活用

長期休業中は、新聞記事を読み、感想や意見を書かせる課題に取り組ませる絶好の機会である。例えば、冬期休業中には、毎年「今年の一文字」の記事を掲載し、「あなたにとっての一文字は？」と題して、漢字一文字を挙げ、その漢字を挙げた理由を書かせる課題を出している。また、その学期中に学習した内容に関する新聞記事を取り上げ、感想を書かせる課題も課している。

(6) 若い目への投稿

本年度は4件掲載していただいた(1月31日現在)。特に、1月29日掲載の「若い目」では、鹿児島市内の読者からFAXで感想をいただき、感銘を受けた。「若い目」では年齢を問わず、多くの読者に今の高校生が考えていることを知ってもらう機会でもある。また、公共の場で自らの意見を表明する場であると考え、と、「主権者教育」の一端を担っているとも考えられる。講演会や行事の際に生徒が書く感想を元に、今後投稿数を増やしていきたい。

3 結びにかえて 課題と今後の展望

少しずつNIEの取り組みが生徒や教員に浸透し、形となりつつあるが、学校全体の大きな取り組みとしては不十分であった。多くの先生の協力を得て、学校のみならず、保護者、さらには地域全体を巻き込む取り組みへと広げるべく、活動を展開していきたいと考えている。さらに昨今教育の研究の分野で言及される「エビデンス」を意識しながら、検証可能な取り組みとなるよう邁進していきたい。